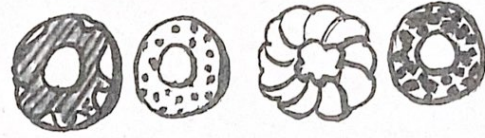


母塾

VOI-45

2020・11・19



illustrated by Kurumi

『 当たり前じゃないキセキに気づこう 』 いのはなはるこ

学生の人に嫌いだっただ月曜日も好きになりました。
お弁当をいくつか作ってみんなを送り出すと「キセキだ」とつぶやきます。
幼稚園の玄関で泣いていた子が当たり前のように上履きをはいています。
希望の学校じゃなくて落ち込んでいた子が髪を気にして登校しています。

6人の子がそれぞれの場所へ「行ってきます」と出ていくこと。
今日夜泣きしなかったこと、オムツが取れたこと、
あのケガが治ったこと、あの友だちともう仲直りしたこと、
全部当たり前じゃない。

そしてバラバラと6人が「ただいま」と帰ってきます。
今日忘れ物を届けなかったこと、保健室からの電話がなかったこと、
ゴミが収集されたこと、幼稚園のお迎えの時間にすべり込めたこと、
全部当たり前じゃない。毎日がキセキです。

この家族で何年間かを過ごしている、そのこと自体がキセキなのでしょう。
帰ってきた中学2年生は「なんかない？」と毎日のセリフ。
おやつを出しながら、あ、これも当たり前じゃないんだな、と思います。
「いってらっしゃい」と言えた私。「おかえり」と言えた私。
私のからだもなかなか頑張っているな、と気づきます。
ちょっと、ひとやすみ。洗濯物はあとで取り込もう。
訊かないと何も話さない中学生を相手にコーヒーでも飲みますか。
話が弾まないな、と思っていたら、年長さんが昼寝から起きてきたので
ふたりでおやつの取り合いを始めました。

harukoinohana1717gmail.com